

望月通陽 展 蕪村に寄す きのふの空の有り所

平素は市立伊丹ミュージアムの企画運営にご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、このたび当ミュージアムでは、「望月通陽展 蕪村に寄す きのふの空の有り所」を開催する運びとなりました。情報掲載につきまして、格別のご協力をお願い申し上げます。

型染、彫刻、版画、ペン画など、幅広い分野で活躍する望月通陽(もちづきみちあき)氏は俳句にも造詣が深く、今回の作品展のために、彼が敬愛する与謝蕪村の句から型染作品を制作しました。それは、これまで多岐にわたる作品を制作してきた望月氏の新たな挑戦と言えるでしょう。

本展では、型染とつつ描染による「与謝蕪村×望月通陽」に加え、「きのふの空」を感じていただくことができるよう、現在に至るまでのさまざまな作品も併せて紹介いたします。

展覧会名

望月通陽 展 蕪村に寄す きのふの空の有り所

会 期

2022年7月15日(金)～8月14日(日)
休館日：月曜日(祝日の場合は開館、翌平日休館)
10:00～18:00(入館は17:30まで)

会 場

市立伊丹ミュージアム 展示室 6

入 場 料

無料

出 品 者

望月通陽(造形作家)

出品作品(予定)

蕪村の句から制作した型染とつつ描染による作品(新作)約30点
望月通陽のこれまでの軌跡を辿ることのできる型染、彫刻、版画作品、望月氏による書籍等
(作品は一部を除き販売いたします。作品お渡しは会期終了後になるものもございます。)

主 催

市立伊丹ミュージアム(伊丹ミュージアム運営共同事業体、伊丹市)

協 力

gallery yamahon

その他

- ・望月氏関連番組 NHK クラシック倶楽部「一行の詩のために～つのだたかしと望月通陽の世界～」を会期中 会場にて放映。
- ・初日(7月15日(金))は作家来館予定。

望月通陽 Michiaki Mochizuki (もちづき みちあき)

1953年 静岡市生まれ

染色、陶芸、ガラス絵、紙版画、リトグラフ、木彫、ブロンズなど、多様な手法を用いて独自の作品世界を築いている。『宮本輝全集 全14巻』など装幀を手がけ、1995年講談社出版文化賞ブックデザイン賞受賞。光文社古典新訳文庫の表紙画など、絵本や、挿絵の仕事も多数。画文集『道に降りた散歩家』で2001年ポローニャ国際児童図書展ラガッツィ賞受賞。作品集に『円周の羊』、『Mの辞典』など。

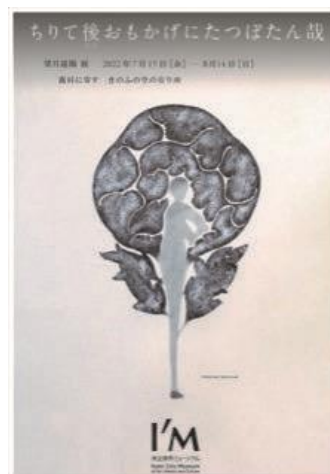
ツウヨウさんがやって来る!

彼は染色や造形を軸に多彩に活躍しているが、その仕事はちょっとだけ新しい世界を作ることだ。別の言い方をしたら、この世から不断にはみだす。ツウヨウさんとI/Mの縁側に腰をかけ、足をぶらぶらさせながら話したい。話していると、この世を少しずれ、未知の世界の空気に触れるかも。ツウヨウさんに「魔法使い」という短詩がある。夜の角を曲がった三軒目、昼間は交番のあるところが魔法使いの仕事場だ、という詩。でも、そこが奴の仕事場であることは、誰にも言うてはいけない。もし密告したら「ワスレナグサにされる」のだ。

実は、ツウヨウさんの戸籍上の名はミチアキ。うわさだと彼はこのミチアキが気に入らしい。でも、私は勝手にツウヨウさんと音読している。縁側に腰をかけて、ツウヨウさんと呼びかけたら、私はワスレナグサにされるだろうか。

ワスレナグサにされてもいい。ツウヨウさんと呼びかけて、私は足をぶらぶらしたい。

坪内稔典(市立伊丹ミュージアム名誉館長)



情報に関する確認・取材申込・写真提供などにつきましては、市立伊丹ミュージアムまでご連絡くださいますよう、お願い申し上げます。

問合せ先 市立伊丹ミュージアム 望月通陽展 担当：清水のり子
〒664-0895 兵庫県伊丹市宮ノ前2-5-20 TEL 072-772-5557 FAX 072-772-5558
URL <https://itami-im.jp/> E-mail crafts@itami-im.jp